

■はじめに

5 月 21 日付奈良新聞に一条高校の学科再編のニュースが出ました。正式には、臨時教育委員会で議決をいただくことになっていますが、一条高校を目指す子供や保護者がお尋ねになることもあることから、今日はこのことについて話をします。

学科については、今まで 4 学科であったものを普通科（7 クラス）、外国語科（2 クラス）の 2 学科とします。普通科の中に、科学探究コースを 2 クラス設置します。



■学科再編の 3 つの理由

一条高校が、学科再編をする理由は 3 つあります。

1. これからやってくる「Society5.0」と言われる社会を切り拓いていき、その社会の中で生きていく力をつけていくため。
2. 2020 年から始まる大学入試改革に対応するため。
3. 県立高校再編の中で、特色を打ち出し、一条を魅力ある学校として存続させていくため。

■一条高校の 3 つのキーワード「探究」「STEM」「文理統合」

学科再編を行った中で、どのような教育を行っていくのか、キーワードは 3 つあります。「探究」、「STEM」、「文理統合」です。

「探究」の例として、理数教育研究所が主催する「算数・数学自由研究コンクール」で受賞した作品を紹介します。

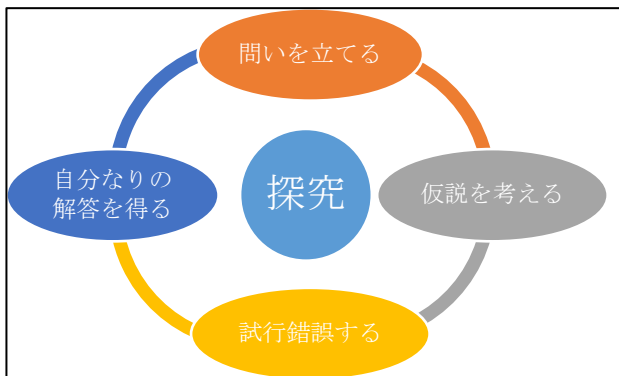
- ① 王寺町立王寺北小学校 3 年 田中絆さん「三年生で習う一番むずかしい漢字は何？」
- ② 弘前大学教育学部附属中学校 3 年 工藤優耀さん「西から昇ったおひさま」が見たい!!
(実践については、HP 参照 <http://www.rimse.or.jp/research/>)

この二人の研究のように、自分なりの問いを立て、自分なりの仮説を立て、自分なりの方法で、自分なりの答えにたどり着く。この学びのプロセスを「探究」と呼びます。

また、この研究は、教科横断的な学びによる相乗効果によって、互いの教科・領域の学びが活性化し、身近な生活や社会の課題を、複数の教科・領域の知識、とりわけ理数の知識やスキルを活用して探求し、解決しようとしたものです。こうした教育を、「STEM」教育といいます。

一条高校では、こうした STEM 教育に、Arts（いわゆる芸術）の要素を取り入れ、「Arts STEM 教育」と名付け、それを学びの基盤に位置付けました。

「何か新しいものを生み出したい」、「創造したい」という時に生徒の中に湧いてくる、「挑戦する心」「ワクワク心」を大切にしていきたいと思います。



一条高校の学科再編は、単に数理科学科、人文科学科を再編したということではなく、文系、理系に偏ることなく、5教科をバランスよく学び、その中で生徒が自ら問いを立て、探求する力を育てていくことにあります。一条高校では、これからの時代に対応したいいわゆる「文理統合」の教育を行っていききたいと思います。

こうした一条高校の学科再編は、4月17日に国の中央教育審議会に諮問された「新時代に対応した高等学校教育の在り方」と同じ考えに立ったものであります。

(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1415877.htm)

このような、Arts-STEM を基盤とした探求は、高校3年間だけで実現していくものではありません。中学校からの一貫した教育、いわゆる、中高一貫教育の導入ということも視野に入れておきたいとも思っています。

■新しい学習指導要領リーフレット

新しい学習指導要領の保護者啓発リーフレットの1ページ目には、次のような言葉が載っています。

学校で学んだことが、子供たちの「生きる力」となって、明日に、そしてその先の人生につながってほしい。これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれ思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創っていききたい。2020年度から始まる新しい「学習指導要領」には、そうした願いが込められています。

(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1413516.htm)

高等学校の3年間はその後に残されている長い人生のスタートゾーンに立ったところだと思います。高校を卒業した後も、自分らしく生きていくために、充実した高校生活を送ってもらいたいと思います。そのためには、高校ではただ単に楽しく学校生活を送るだけでなく、真剣に学ぶことも大事だと思います。「楽しい学校」と、「真剣に学ぶこと」は相反するものではなく、両立するものです。一条高校が、これから高校を目指す奈良市の小中学生にとって、「学んでみたい学校」になっていければと思っています。